

ふる～ぶ Fleuve

VOL. 72

2006/2

contents

巻頭特集 吉野川アラカルト 吉野川流域 地名の由来

ふる～ぶ編集部がおじゃまします。
三庄小学校の巻

1

今月の表紙イラスト 四国のみずべ八十八カ所
貞光ゆうゆう館周辺の竹林とみずべ

4

ふる～ぶめいと通信
わらそうりとしめ縄つくり体験

5

野草つみと野草料理教室
参加者募集のお知らせ

Kochi

らららエッセイ
サイクリング

6

ふる～ぶインフォメーション

6

「吉野川の渡し展」と

「阿讃の道渡しと峠の写真展」開催

よりよい吉野川つくり

7

第9回

平成17年度 第十堰補修工事進行中です。

ふる～ぶひ～るば

7

編集後記・ふる～ぶ展 報告・おたより 作品大募集



吉野川流域 地名の由来



岩津…現在の阿波市と吉野川市山川町を結んでいた渡し場、川湊があった。

みなさんが住んでいる所には、必ず名前がつけられています。自分が住んでいる地域の地名について「どうしてこういう名前がついているのだろう？」と思ったことはありませんか？

吉野川流域の市町村にもさまざまな地名が付けられていますが、よく似た地名、もしくは同じ地名がつけられている地域があります。地名を長年にわたり、研究されているふる～ぶめいとのかずさんにお話を伺いました。今回は、吉野川流域の地名の由来について、ご紹介しましょう。





地名に魅せられて

ふる〜ぶめいと
日本民俗学会 会員
萩澤 明雄さん

地名について長年研究をされている萩澤さん。地名に関しての本「徳島の地名と民俗」（阿波文庫）も執筆されています。子どもの頃から、自分の生まれた村や近くの町と同じ地名に出会うと、親しみがわき、どんな意味だろうかと、好奇心にかられ、地誌の本や、昔話集などをよく読まれていたそうです。昭和46年、東祖谷中学校に転任すると、村内の家々が、明治5年につけられた名字の他に、以前から呼び合っていた、さこ、かきのもと、ひうらなど屋号があり、1軒1軒に地名があることから、これが地名の最小単位であることがわかり、その拡充、発達過程を追求する基礎的研究をはじめ、今も続いています。

地名は、そこに住む人が生活の必要上名付けたも

のです。そういったことから一つ一つの地名には名づけられた時に動機がありますが、今では忘れられている事がほとんどです。古代の地名は、口から口へと受け継がれていました。それが漢字の伝来により、その音や訓から地名を表記（万葉仮名）するようになりました。萩澤さんの研究によると、713年（和銅6）の風土記の編纂では、元明天皇の詔に「諸国郡郷の名、好字（よい文字）をつけよ」と決められ、また、延喜式の民部式（律令の施行細則）では、「凡諸国部内、郡里等の名、二字を用い必ず嘉名（よい名）をとれ」と記されているそうです。このようなことから、万葉仮名から好字へ、そして、二字の嘉名へと変遷し、現在に至っていることがわかります。長い地名が短縮され、短い地名は引き延ばされたことが予測されます。地名を見る時には、漢字からその地名がつけられた意味や背景を考えがちですが、漢字からではなく、「音」だけを手がかりにして由来を考え、そこからさらに研究や考察をすすめていくことに、真実に迫ることができ、多角的な考察を重ねることにより文化的価値を見いだすことができるそうです。地名は歴史から送られた現代へのメッセージである。そう萩澤さんは語ります。

※嘉名…縁起のいいよい名前

萩澤さんから教えていただいた地名の由来について紹介します。

吉野川中下流域には、島、洲、須、須賀、塚、浜など砂の堆積でうまれた島地の自然地名が多い。
自然地名…知恵島、鯛浜など

① 吉野川市鴨島町知恵島

吉野川中流域右岸沿いの平野で南端は、吉野川の旧流路である江川が流れていて吉野川と江川に囲まれた島である。「チエジマ」はもと上流側の西知恵島付近であったが、室町時代に全地域にひろまったという。ここに今も残っている天島（テイジマと読む）という地名が、知恵島の語源とも言われているが、低島の意にも通じ、吉野川本流により河岸が削られて潰れる。（つえる）潰島（つえじま）が（ちえじま）と変化し、嘉名の知恵島になったのではなかろうか。阿波方言の音韻変化様式にも同行内変化で3段から2段へ、つえる→ちえる ふゆ→ふいなど多くの例があります。



② 北島町鯛浜

北島町鯛浜は、水田に井戸があるところから、田井と名づけられ鯛に書き換えられたものである。1672年（寛文12年）5代藩主、蜂須賀綱矩は、城の堀へ水を引くことと、戦略上、吉野川へ船を通すため、土砂に埋まった別



宮川の河口から吉野川へ接する第十村まで幅6間（約11m）の掘割水路を開いた。これにより、水はまっすぐに流れて、本流はこちらに移り、旧吉野川や今切川の水位が下がり、今切川に包まれた鯛浜の農民は、かんがい用水が不足して田に井戸を掘り、水をくみ上げて急場をしのいだ。そして川筋44カ村の連判状で第十堰を築いて水位を上げてくれるようお願いしたのである。

利用地名からできたもの・・・藍作が行われていたことや、船着き場があったことからつけられた地名。



藍の花

⑥ 藍作・・・藍畑、藍園

石井町藍畑村は、吉野川下流右岸に位置し、板野郡藍園村は、吉野川下流左岸にあって共に江戸時代から明治初期にかけての藍作にちなむ地名である。藍畑村は明治22年、東覚円、西覚円、高畑、第十の4ヵ村が合併して成立。昭和30年、石井町藍畑となる。藍園村は、明治22年、竹之瀬、成瀬、本村、東中富、徳命、奥野の6ヵ村が合併して成立。昭和30年、住吉村と合併して藍住町になっている。

船着き場 ①池田(白地=泊地・中津・州津)・②辻(津地)・③半田・④貞光・⑤脇町・⑥岩津・⑦川島・⑧本須賀・⑨第十

鉄道が開通するまで、貨物の運搬は川を利用することが主流であった。吉野川では、古くから、かんどり船が用いられ、今日に姿をとどめているが、藩政時代から昭和初期にかけては、大きな平田船が用いられた。龍骨がなく底の浅い船で長さ9間、幅7尺、7間の帆柱を備え、船尾で舵をとった。(間=約1.8m 尺=約30.3cm)

春夏には東風を利用し、11反帆を張ってさかのぼり、秋冬には船に綱をつけ、2、3人の船人が川岸に沿って引き上げた。(反=たん・成人一人前の衣料の広さ)

流域には、泊地・津・浜などと呼ぶ船着き場が池田(白地=泊地・中津・州津)、辻(津地)、半田、貞光、脇町、岩津、川島、本須賀、第十にあり、旅客や船人を客とした飲食店や宿屋が軒を連ねていたという。当時、池田・古川間(応神町)の上りは7日間。下りは3日間を要した。明治28年には、船数150隻、年間往復回数2万回に及んだという。



辻の渡し場跡

歴史的地名・・・条里、私学

⑩ 条里・・・西条、五条、上六条、下六条、七条

大化の改新(645)により、班田収授法が、阿波国でも実施されたらしく、その為に耕地を条里に区画した地名が残っている。

6町(約634m)間隔で、耕地を縦横に区切り、6町間隔の列を条、6町平方の一区画を里と呼び、1里は更に1町間隔で縦横に区切って合計36の坪とした。その名残らしいのが、吉野川下流左岸の吉野町西条、五条である。西条はもと4条だったが、四を忌み、五条の西の条の意で西条に改めたという。(板野郡村誌)上板町上六条、下六条、七条と西から東へ条が並んでいる。

⑪ 私学 学

また大化の改新により、阿波国にも国学が設けられ、郡司の子弟の教育にあたられたが、私学もできて庶民の子弟も学んだらしく、そのなごりが吉野川中流域右岸の川島町学だろうという。(阿府志)



まとめ

同じ徳島県の中でもさまざまな時代につけられた地名があり、紹介しきれなかった地名も数多くあります。みなさんも、自分の故郷の名前がどんな意味から生まれたんだろうかと考えると、郷里を深く知るきっかけとなるのではないのでしょうか。

ふる～ぶ 編集部が おじゃまし～す!

このコーナーは、ふる～ぶ編集部が学校や、学習の現場に取材に伺います。

三庄小学校の巻!!

ふるさとの川に学ぶ

「角の浦大橋ができることになり、潜水橋が撤去される時は、寂しくて、写真を撮りにいったんです。」と、4年生担任の小笠先生。吉野川で泳ぎを覚え、魚を釣った日々。そんな日々が懐かし、先生と同じように、角の浦潜水橋を眺め、写真を撮りに出かけられた方も多くいたそうです。

このように多くの人々の心に、想い出の川として、焼き付いているのが、吉野川。三庄小学校では、身近な川である吉野川についての理解を深めるとともに、吉野川と密接に関わってきた先人や、現在の私たちの生活を見つめ直し、未来に向けて大切にしていこうと、総合学習で吉野川について学んでいます。

まず、学習は、9月に、吉野川にどのような生物がいるのか、水生生物調査に出かけることからスタート。その後、10月に、吉野川についてどのように学習を進めていくか、生き物班、用水班、吉野川にかかる橋班、ダム班、吉野川の恵み班、観光班、洪水との戦い班、意識班、などのグループ分けをしました。取材日は、吉野川の流れは、どこから始まっているのか、その歴史や特徴など



について、教室で、国土交通省の流域講座が行われていました。前もって、FAXにて、たくさんの質問を送ってくれた子どもたち。意欲満々で、長時間の講座になったにもかかわらず、しっかりと耳を傾けてくれました。先生のお話によれば、最近では、「先生、吉野川には、なんて竹やぶがいっぱいあるの?」

「ぶぶるばーくみたいな公園は、ほかの県にもあるの」など鋭い質問をぶつけてくることも。

川に親しみ、近づき、楽しみながら、このように、子どもたちは、吉野川に興味を持ち、学習を続けています。実は、このクラスの子どものなかには、水辺の楽校ぶるばーくみかもの名付け親がいるんですよ。そういうことから、ぶぶるばーくには、親しみを持っている子どもたちも多いようです。学習の成果は、違うテーマで学習をしている他の学年とともに、2月の発表会で、保護者の方々、地元の方々にも発表されます。

「徳島といえば、吉野川。私の気持ちを押しつけるつもりはないのですが、子どもたちにも、ふるさとの川という意識を持ってもらえればという願いはあります」と小笠先生。

子どもたちのきらきらした瞳を見ていると、2月の発表会が楽しみになってきました。

今月の表紙イラスト 四国のみずべ八十八カ所



88 Watersides in Shikoku

四国地方整備局では、21世紀に残し、地域が誇ることのできる四国のみずべ空間を選定する「四国のみずべ八十八カ所」を平成13年9月から、1年間に渡って募集し、平成15年に決定しています。ふる～ぶでは、西山欣子さんによる表紙イラストにて、「四国のみずべ八十八カ所」をご紹介します。

No.12 貞光ゆうゆう館周辺の竹林とみずべ

洪水による氾濫を防ぐために植えられた竹林は、現在では、吉野川流域の景観のひとつとなっています。つるぎ町の道の駅貞光ゆうゆう館前にある「ゆうゆうパーク」は、吉野川沿いにウォーキングコースやサッカー場、パークゴルフ場があり、住民の憩いの場となっています。

「四国のみずべ八十八カ所」の詳細情報は、<http://www.skr.mlit.go.jp/kasen/mizube88/> まで



ふる～ぶめいと通信

ふる～ぶめいとのみなさんは、
吉野川が大好きな吉野川ファンの集まりです。

ふる～ぶめいとの活動は、吉野川や、
吉野川流域の吉野川に関する身近な
情報をふる～ぶに提供することにより、
吉野川に親しみや、関心を持ってい
ただいて、吉野川ファンの輪を広げ
ていただくことを目的としています。



12月4日(日)

わらぞうりとしめ縄づくり体験

in 石井河川防災ステーション



る～ぶめいとの大塚邦光さんを中心に、めいと
のみなさんに講師になっていただき、ふる～ぶ
の師走の恒例行事「わらぞうりとしめ縄づくり体験」を開催
しました。約40人の方が、参加をしてくださいました。

わらをしめらせ、たたいてやわらかくすることから始まりました。わらを見るのも触るのも
初めてという子どもたちもいましたが、みんなわらをたたくことに夢中になっていました。

好きな鼻緒を選び、早速、わらぞうり作りをスタート。はじめは、編み目をとぼしたり、少
し足よりも大きいサイズや小さいサイズになったりしていましたが、だんだんとコツを覚え、ぎゅっぎゅつと隙間
ができないようにわらを編み、きれいな形に仕上がっていききました。子どもたちもそうですが、保護者の方々も夢
中になっていました。余分なわらを切って、形を整えると完成です。早速、はいて歩いている子どもたちもいました。

わら草履を作った後は、しめ縄づくりを行い、師走にぴったりのイベントとなりました。お昼に食べたいものがゆめ
美味しかったです。



『野草つみと野草料理教室』参加者募集のお知らせ

堤防も枯れた土色から、淡い緑色へ。早春の吉野川は、気分もウキウキしてきますね。そんな吉野川へ出かけ
てみませんか？

毎年大好評のこの教室では、ふる～ぶめいとの指導のもと、実際に吉野川へでかけ、野草を摘み、料理をして
みんなで食べます。今まで、ふる～ぶめいとの野草料理開発隊では、さまざまなメニューを開発してきましたが、
今年もご期待!! 昨年の野草チャーハンや、野草シフォンケーキに続くメニューは、パン、サラダ、スープ、
デザートフルコースの予定です。吉野川に近づいて、見て、食べて、春を感じてみませんか？

募集要項

日時 平成18年3月5日(日) 9:30～15:00

場所 石井河川防災ステーション

名西郡石井町藍畑西覚円

参加費 1人 200円程度(損害保険料、材料費)

人員 小学校4年生以上と保護者10組(20人程度)

締切 平成18年2月22日(水)必着

申込方法 氏名、年齢、住所、電話番号、郵便番号をご記入のうえ、
ハガキまたは、FAXをお送りください。
申し込み多数の場合は、抽選となります。



申込先及びお問合わせ先

〒770-0803 徳島市上吉野町3丁目35
国土交通省徳島河川国道事務所用地第三課「野草つみ係」
TEL:088-654-9153 FAX:088-654-9177

主催

国土交通省徳島河川国道事務所
吉野川ファン通信ふる～ぶ
ふる～ぶめいと

『野草つみと野草料理教室』はリバーキープーズ関連イベントです。

RaRaRa Essay

vol.9

サイクリング

ふる～ふめいとの安原多恵子さんが

季節にまつわる様々な話題を文字とイラストでつづります。

さわやかな風を切って、気の合った仲間とペダルを踏む。たまには自転車もいもんだ。中学生の頃はよく走った。自分の住む町はもろんのことして間もなかった小鳴門橋が通りたくて、友人と鳴門公園まで行った。途中で土佐泊の紀貫之の石碑を見たり、海岸で遊んだり。またある時は、名西郡神山町の雨乞の滝へも行った。藍住町から神山までいったい何十km位あるだろう。とにかく遠かった。行きは鮎喰川南岸を走り、帰りは北岸を走った。朝早く出て、帰って来たのは夕方遅くなった。滝の水しぶきを眺めながら食べたおにぎりのおいしさが忘れられない。名田橋が開通してまもなくの頃だったから昭和39年だったろうか。一日中、山道を走っていたけれど車にはほとんど出会わなかった。そんな時代。

今、車に会わずに道路を走



るなんてことはまず不可能なことだけれど、たまには自転車で走りたい。サイクリングロードがもつ沢山あればいいのに、時々思う。たとえば、吉野川の流れに添って、車を気にせず走れる道があったらどんなにか素敵だろう。河口から源流をめざして、家族と、友人達と、職場の仲間達と川風に吹かれながらのんびり楽しくサイクリングのできる道。そんな道があったら、私もサイクリングに出かけた。

安原 多恵子 板野郎藍住町生まれ。徳島市在住。短歌「松籟」「徳島短歌」「女人短歌」を経て現在「塔」所属。歌集に「さ緑の風」。

ふる～ぶ Information

『吉野川の渡し展』と『阿讃の道 渡しと峠の写真展』開催

現在のような橋がなかった時代、吉野川はその兩岸に住む人々にとっては大きな障害であり、渡しが兩岸を結ぶ唯一の交通路としてなくてはならぬものでした。吉野川渡し研究会では、吉野川流域の渡しの調査を行い、116ヶ所の渡しがあったことが分かりました。

「吉野川の渡し展」では、かつての渡し場の姿や渡船の様子を振り返り、忘れ去られつつある川との関わり方の一端を紹介します。「阿讃の道 渡しと峠の写真展」では、阿波と讃岐をつなぐかつての渡しと街道と峠の姿を紹介します。(入場無料)

吉野川の渡し展

開催日程

平成18年2月18日(土)～3月19日(日)
9:30～17:00

場所

徳島県立博物館
1階企画展示室

問い合わせ先

徳島県立博物館普及係
TEL:088-668-3636



失われた交通路

阿讃の道 渡しと峠の写真展

開催日程

平成18年2月17日(金)～19日(日)
10:00～18:00
(19日は17:00まで)

場所

徳島駅前 シビックセンター
5Fギャラリー

問い合わせ先

吉野川渡し研究会
TEL:088-662-3773



よりよい吉野川づくり



第9回

平成17年度

第十堰補修工事進行中です。

このコーナーでは、
吉野川河川整備計画についての
取り組みについて、ご紹介していきます。

徳島河川国道事務所では、『よりよい吉野川づくり』にむけての基本的な考え方にに基づき、
第十堰の現状調査を実施してまいりました。

この一環として、平成16年11月より、測量調査、変状調査、空洞化調査等、現在の状態の
把握調査を行った結果、上堰青石張り破損17箇所、下堰平張コンクリート及び下堰コン
クリートブロック流出3箇所、下堰コンクリート背面空洞化3箇所、下堰コンクリート平張破
損6箇所について、破損箇所の拡大を防ぐため、補修（原型復旧）が必要と確認され、損傷の
度合いより順位を決め、下堰平張コンクリートの流出に伴う応急対策を行った箇所の復旧
と、上堰青石張りの1箇所の復旧方法などについて、広く住民に意見を求め、補修（案）を皆
さんに示とともに青石張工法の現地説明会を行った後、平成17年10月より、上堰の青
石破損箇所500平方メートルと、下堰の平張コンクリート及び、コンクリートブロック流出
箇所130平方メートルの一部箇所について、補修工事に着手しています。

平成17年12月8日には、第1回目として青石張の基礎部にあたる補修工事の見学会を開催しました。参加者は、住民
のみなさんなど総勢、約50名が参加しました。第十堰の補修工事についての留意点として、新旧の継目部が水当たり部、
平張部ともスムーズな強さとなることと、見た目美しく極力コンクリートが見えないように工事を進めていきます。

今回の見学会では、工事全体の進捗状況の説明、木ぐいに使われている松や青石で補石されたコンクリートブロック、
使用される青石を見たり、上堰の破損箇所を見学しました。また、すでに、立てられている松杭にドリルで穴
を空け、つなぎ、破損する前に近い形で枠を作っていく作業を見学しました。今後、こうして作られた枠に、石が詰められ、
従来のように表面に青石を敷き補修していきます。

見学終了後、ブロックについて出来る範囲で青石を張ってほしい、インターネットなどで、工事の進捗状況を教えてほ
しいなどの意見がありました。

基礎工事は、12月までに終了し、1月中旬ごろから、コンクリートの青石張りの作業へと取りかかっていく予定です。
また、第2回目の補修工事の青石張見学会として2月上旬ごろを計画しており、3月中旬に、工事は、終了する予定です。



よりよい吉野川づくり（吉野川河川整備計画）
については、徳島河川国道事務所のホームページで
詳しくご紹介しています。

<http://www.toku-mlit.go.jp/>

ふる～ぶひろ～ば

ふる～ぶ
編集後記

地名の由来って色々あるんだなと感じました。我が家の
自宅の住所も由来が分かりやすいんですよ。みなさんも
ご自身が住んでいる場所の地名の由来を調べてみると、
知らなかった歴史などが発見できるかもしれませんね(や)
春が待ち遠しい季節ですね。日々忙しさを覚えるとうれ
しくなります。今月は、春の野草料理教室のご案内をして
います。春の恵みをみんなで料理して、食べませんか？
笑顔が満開になりますよ。(か)

ふる～ぶ版 報告 1月9日～17日
徳島市中央図書館

年始めにゆうゆう館でふる～ぶ版を開催
するのは初めてでした。門松やしめ縄が飾ら
れ、ギャラリーには「読書新年」と書かれた巻
紙が貼られて新年ムードいっぱいでした。
表紙のイラスト原画、ふる～ぶの活動紹介
をはじめ徳島県内にかつる吉野川の橋の
写真、徳島県技術士増田博の紹介コーナー
もとても盛り上がり、ご来場いただいた
たくさんの方と
うごきました。

おたより 作品大募集!

ふる～ぶでは読者のみなさんからの
情報、お便りを募集しています。掲載さ
れた方と毎月抽選で5名様西山欣子
さんイラストふる～ぶオリジナルポス
トカードを差し上げます。